

平成30年度 幼稚園自己評価

重点目標	具体的な取り組み	実施状況・成果	評価の観点	達成度判断基準	判定	来年度に向けて
幼小連携の充実	連携・交流活動	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も5歳児を3つのグループに分け、1年生3クラスそれぞれと交流活動を行った 6/7 1年生からアサガオをもらう 6/12 弁当交流 7/10 「すなやみずであそぼう」(幼Cグループと1-3) 7/17 「すなやみずであそぼう」(幼Aグループと1-1) 9/4 「ランチルームであそぼう」(幼Bグループと1-2) 11/14 「あきのわくわくランド」(幼Aグループと1-1), 「あきのおもちゃランド」(幼Bグループと1-2, 幼Cグループと1-3) 11/17 「あきのおもちゃランド」(幼Aグループと1-1) 11/21 「あきのおもちゃランド」(幼Aグループと1-1) 12/5 「からだゲームランド」年長と1-2 12/10 1年生に焼き芋を届ける 2/15 「新1年生を迎える会」 <ul style="list-style-type: none"> 年度初めに計画していた活動以外にも、夏休みの作品展見学や交流活動で幼児が感じたことを伝える活動など、幼児や児童の思いに沿ってタイミングを逃さず関わる事ができた 	年長組と小学1年生3クラスが学年間で交流活動を計画的に行うことができたか	A: 計画以上にできた B: 予定通りにできた C: 予定の5割程度行うことができた D: できなかった	A	引き続き計画的に交流活動を行いながら、幼児においては小学校の生活を知ることによって進学の期待感をもち、教師においては小学校教育の理解を深める
	幼小の教員が連携してカリキュラムの検討、作成を行う	<ul style="list-style-type: none"> 10月2日接続期カリキュラム検討会として、1年生担任3人、小学校養護教諭、年長組担任2人で、主に接続後期のカリキュラムについて協議を行ったが、十分とはいえない 	幼小の教員が連携してカリキュラムの検討、作成を行うことができたか	A: 十分にできた B: 5割程度できた C: 3割程度できた D: できなかった	B	小学校のスタートカリキュラムと接続期カリキュラムの擦り合わせ、接続期における互いの学級の見学に取り組む
	金沢市小学校教育研究会へ参加	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事予定に小教研の日程を組み込み、園の行事等との日程調整を行った 5/10 発足集会に参加した 6/7 長田町小にて1年生生活科の指導案検討会に参加した 8/3 金沢市の小学校養護教諭が本園の保育環境を参観し、幼児への保健指導の実際など、幼小連携について学び合った 9/13 中央小学校にて3年生総合の研究授業を参観した 11/8, 9 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会に参加した 	金沢市小学校教育研究会に参加することができたか	A: 全ての日程に参加できた B: 5割程度参加できた C: 3割程度参加できた D: 参加できなかった	B	年間行事予定に組み込んだことで、昨年度よりも参加がしやすくなった。来年度も、年間行事予定に日程を組み込み、参加することができるよう調整を行っていく
自然体験の充実	角間の里山での活動の意義を明らかにする	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、教員、自然インストラクター、農業従事者が、それぞれの専門性を活かし、より連携を深め、活動内容を充実させることができたことが大きな成果である。その際、昨年度の活動案をもとに検討し、活動案に「幼児の姿」「予想される危険」を追記した。また、活動後は振り返りを行い、活動の有効性や幼児の姿、幼児の変容の記録を蓄積してきた 年度当初に5歳児全員にインタビュー調査、年度末に全園児の保護者にアンケート調査、5歳児全員にインタビュー調査を行った 幼児、保護者を対象に行ったアンケート、インタビュー調査の結果から、幼児は里山活動を通して、自然に対する価値観が変容していることはもちろん、自分自身の成長を感じていることが明らかとなった。また、保護者自身も幼児の変容を通して、自然に対する価値観が変容すると共にチャレンジすることの大切さ、命の尊さなどを感じていたことが明らかとなった 	意義を明らかにできたか	A: できた B: 5割程度できた C: 意義について検討し始めた D: できなかった	A	これまで蓄積してきた自然体験プログラムをまとめると共に、その内容を発信する
	安全対策マニュアルの試案を作成する	<ul style="list-style-type: none"> 救急体制、教育活動の視点(幼児の危険予知や回避の力を育むなど)を取り入れた安全対策マニュアルの試案を作成した 	安全対策マニュアルの試案の作成はできたか	A: 作成できた B: 5割程度作成できた C: 作成に着手した D: 作成できなかった	A	<ul style="list-style-type: none"> 作成した安全対策マニュアルの試案を基に教職員の共通理解を図るとともにインストラクターなどの関係者と連携を図っていく 金沢大学角間の里山ゾーン安全対策マニュアルを発信する
発信の充実	研究成果・研修方法を地域の教育関係者が活用できるよう、発信の工夫をする	<ul style="list-style-type: none"> 作成した接続カリキュラム(試案)をHPに掲載し、ダウンロードして活用できるようにした。(回覧数3月6日現在:40/月) 松蔭大学教授の山下文一先生に3回来園していただき、研修方法について指導・助言を受けると共に、保育実習研修会を企画し、研修方法等について地域に発信した 8/1に行われた東海北陸国立幼稚園・こども園長会研究大会にて、幼小接続についてのパネルディスカッションに本園研究主任が登壇し、これまで本園で取り組んできた実践を発信した 	地域の教育関係者が活用できるような発信ができたか	A: 地域の保育関係者に役立つ発信ができた B: 地域の保育関係者に役立つ発信方法を模索し、試行した C: 発信方法について模索している D: 取り組んでいない	B	引き続き、研究成果・研修方法の発信について模索し試行を重ねていく